日本航空 OB 乗員
有志の会ニュース

2022.7.10
No.22-008

HP：http://jalfltcrewob.web.fc2.com/
Mail：jalfltcrewob@gmail.com

安全で明るい JAL

内外の団結強化で解雇争議の解決へ

取り組み紹介

航空連フェニックス 7 月 1 日 381 号内 JAL 解雇争議関連記事

「解決したい」全役員同じ

会社から新たな提案

「業務委託による職務の提供」

JAL解雇争議

航空連の夏闘での乗客向け宣伝。6月10日

JAL解雇争議の解決を求める闘いは、この間の労使交渉を踏まえ、地上職での復職を希望する被解雇者の復職が進みました。これまでにパイロット原告5名、客乗原告3名の地上職での復職が決まりました。当該2労組（JFU、CCU）は、夏闘での統一要求の更なる前進による解決を目指しました。

夏闘での2労組の争議解決を求める要求は、CCUは統一要求に基づき、ILO勧告及び不当労働行為裁判の最高裁決定を踏まえ、被解雇者の具体的要求は4項目。JFUでは統一要求の前進とあわせ、第21回特別協議（4月13日）でJFUが提示した協定書案（労使で合意した内容の文書化）に対する会社案の提示を求めました。

5月17日に始まった夏闘交渉、約1カ月にわたる交渉期間内で5回の団体交渉が行われました。この間には社長出席の経営協議会も行われ、CCUから提出された原告41名のメッセージに対する感想を赤坂社長に求めたところ「全部読んだ。大変心を打たれた。役員の中でも是非共有したい」とコメントされました。

また団体交渉でも、担当役員でもある人財本部長は、春闘団交で読み上げられたメッセージについて「当時担当でした。いくつか忘れられないシーンがある」「解決しなきゃいけないという思いを着任してから本当に思っている」と発言。5回目の団交では「被解雇者の方々41名のコメントは役員で共有している。解雇問題の解決に向けて努力したいという気持ちは、社長はじめ全役員が同じだということはあらためて確認した」と発言しました。社長を含め役員の共感を生んだメッセージは、重要な意義を持つ取り組みとなりました。

JFUとの交渉で同本部長は「（第21回特別協議で組合が提示した協定書について）こういうものが出てくるとは思わなかった」と述べました。

6月17日の航空の山場で夏闘交渉は区切りをつけ、6月23日、24日には特別交渉が開催されました。23日には会社から新たに「業務委託による職務の提供」が提案されました。被解雇者全員を対象としており、詳細の確認については引続き協議を続けていきます。

JFUとCCUは会社提案を分析するとともに、争議解決に向け引続き交渉を行っていきます。

皆さん　2021 年も
カンパ・取り組み参加お願い致します

OB 乗員有志の会：カンパ振込先

今後の日程

＊宣伝行動・各地集会：私たちはあきらめない!!!
原告団 HP 日程参照

＊山口　宏弥氏　著書紹介：「安全な翼を求めて」

アマゾン書評

・詳細は、枠内をクリックして御覧下さい。